

多様性社会を共に考え、語り合う。しぶやフォーラム開催。

令和4年  
(2022年) 3月15日

No.1486



発行 | 渋谷区  
編集 | 広報コミュニケーション課  
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1  
電話 | 03-3463-1211 (代表)

 @city\_shibuya

 @shibuya.city

 @city\_shibuya\_official

 @shibuyacity

区SNSは  
こちら



しぶやフォーラム2021実行委員の皆さん

※インタビュー時は、マスクを着用、換気、社会的距離の確保を徹底し、感染対策を行いました。撮影時のみ、マスクを外して撮影しました。

## 「#多様性beyondしぶや、多様性のその先へ」

- |                   |                   |                |                         |
|-------------------|-------------------|----------------|-------------------------|
| 2   多様性社会を実現する    | 4   令和4年第1回区議会定例会 | 6   公衆浴場無料入浴デー | 10   高額医療・高額介護合算制度により   |
| 3   第一歩を踏み出すイベント。 | 5   区長発言(抄)ほか     | 9   ほか         | 11   自己負担額の一部が支給されます ほか |

引き続き感染症対策にご協力をお願いします。

掲載情報は新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる場合があります。

# 多様性社会を実現する第一歩を踏み出すイベント。

渋谷のラジオで  
出張インタビュー

1月30日にオンラインで開催された、多様性社会について考える「渋谷フォーラム2021」の実行委員の皆さんに、イベントの振り返りや活動に対する思いを伺いました。



今後は差別や構造的な格差について、皆さんと一緒に考えを深めていきたいです。

渋谷フォーラム2021実行委員、津田塾大学総合政策学部2年 くらた めいみ 窪田明夏さん



このフォーラムで皆さんと意見を交わすことで、自分の考えをアップデートできました。

渋谷フォーラム2021実行委員、実践女子大学人間社会学部3年 しん あい 椎名 愛さん



人と関わることをあきらめないでほしいということをお伝えしたいです。

渋谷フォーラム2021実行委員、津田塾大学文学部1年 しみず りんこ 志水琴美さん



バーチャルファッションショーでは性別に関係なく着られる服などさまざまなアドバイスをいただきました。

渋谷フォーラム2021実行委員 なまえ やすひろ 生江康宏さん



お互いに向き合い、相手の話に耳を傾けることが多様性のその先につながると思います。

渋谷フォーラム2021実行委員 ふくもと ともえ 福本朝江さん

## 渋谷フォーラムとは？

区の行動計画に基づき、男女平等と多様性社会の実現を目指し、区民が共に考え、共に行動するための催しとして、毎年テーマを決めて開催されているイベント。実行委員メンバーは有志で集められ、イベントのコンセプトから企画内容、ゲストの選定、広報などを担当。

### 渋谷フォーラム2021について

テーマ「#多様性beyond 渋谷、多様性のその先へ」のもと開催。今回はすべてオンラインで行われた。第一部は、さまざまな背景を持つモデル役がバーチャルのランウェイに登場する「渋谷ダイバーシティコレクション(SDC)“あなた”×“プロデューサー”=!?」、第二部は人を本と見立て、本(社会的マイノリティーの人)と読者(参加者)が対話することで相互理解を深める取り組み「ヒューマンライブラリー」を実施した。

## 男女平等や社会的マイノリティーに目を向けたイベント

### ——皆さんの自己紹介と、渋谷フォーラム実行委員に応募されたきっかけを教えてください。

**志水:** 私は将来、英語の教員になることが目標で、教壇に立ったらダイバーシティが実現した教室をつくりたいと思っています。そのため多様性について理解を深めたいと考え、実行委員に応募しました。

**窪田:** 私は通っている大学が渋谷区内にあり、渋谷に貢献したいなという思いから応募しました。

**生江:** 私は現在、渋谷区に住んでおり、2歳の息子がいます。子どもを育てる中で性教育を取り入れていこうと考えており、多様性についてより勉強したいと思い、応募しました。

**椎名:** 大学でジェンダーについて学んでおり、このフォーラムで皆さんと意見を交わすことで自分の考えをアップデートしたいと思い、応募しました。

**福本:** 神戸市から渋谷区に引っ越してきて、区の取り組みにすごく興味がありました。渋谷区ニュースに掲載されている実行委員の募集を見つけて、ぜひやってみようと思いました。

### ——「渋谷フォーラム」とはどういったイベントなのでしょう。

**志水:** 渋谷フォーラムの前身は、昭和58年に開催された「婦人のつどい」です。平成27年に「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」が施行されたことをきっかけに、「男女平等のみならず、社会的にマイノリティーとされて生きづらさを感じている人たちの問題にも目を向け、男女平等と多様性を実現する社会を目指すために開かれるイベント」となっています。

## 多様性のその先を考えてみる

### ——1月30日にオンラインで開催された「渋谷フォーラム2021」について教えてください。

**生江:** 第一部は「渋谷ダイバーシティコレクション(SDC)」というバーチャルファッションショーを開催しました。障がいのある人、LGBTQ当事者など、あらゆる世代のあらゆるバックグラウンドを持つ人々をモデル役に募集し、自分の個性に自信を持ちたいという思いをデザイナーがヒアリングして、制作した服をバーチャルランウェイで表現しました。私は日頃から性別関係なく選べる子ども服が増えてほしいと考えていたこともあり、今回のイベントで披露させてもらいました。

**窪田:** 第二部では「ヒューマンライブラリー」を行いました。ゲストが「本」役となって、参加者である「読者」に人生の話をし、対話型プログラムです。ゲスト1名、読者3名という少人数の空間で対話をしました。私が担当したゲストは「一般社団法人母親アップデート」という団体を運営している人で、女性が働きながら育児をしていく中での生きづらさはまだまだ改善されていない、という気付きがありました。

### ——今回のテーマ「#多様性beyond 渋谷、多様性のその先へ」には、どのような思いが込められているのでしょうか。

**福本:** 多様性と聞くと、セクシュアルマイノリティーや障がい者、ホームレスの人などさまざまな言葉が出てきますが、実行委員で話し合いを通じて、多様性とはそういった言葉だけを切り取って定義できるものではないと気付いたんです。特定の言葉で切り取ることで、そこから外れてしまう人がいるかもしれないし、多様性を想像することが難しくなってしまうかもしれない。そのような問題意識から「多様性のその先を考えてみよう」という考えを共有し、各企画チームの運営につなげていきました。

### ——イベントを終えての感想を教えてください。

**椎名:** 参加者の皆さんとお話ししたり、実行委員のメンバーとディスカッションしたりすることで、多様性とは何か、多様性のその先とはどのようなものか、あるいはマイノリティーとは何かなどの問題について、原点に立ち返って考えることができました。

**志水:** 私は先天的な病気があって、小中学校の4年間を病院併設の学校で過ごしたのですが、高校以降は一般の学校に進学しました。学校生活の中で、マイノリティーとしてモヤモヤする部分と、逆にマジョリティーの立場で考える部分との間で葛藤があったんです。そんな中、渋谷フォーラムで素晴らしい人たちと出会い、その迷いが吹っ切れたように思います。自分の個性は複雑で、自分でも気付かない部分がある。それは自分だけではなく、誰もが同じであると気付きました。

**生江:** 私は、第一部のSDCで、自分が考える衣装をデザインしてもらい、うれしかったです。また、みんなとスケジュールを合わせるのが難しかったのですが、オンラインでの会議だけでイベントができてしまうことに驚きました。実行委員はさまざまな年代の方々がいて、そうした人たちと渋谷フォーラムをつくり上げることができたのも良かったです。

## 「多様性」という言葉がなくても、ただ共存する社会を目指したい

### ——「多様性が尊重される社会」とはどのような姿だと思いますか。

**福本:** 今回のイベントのポスターが、まさに多様性が尊重される社会を表現できていると感じています。色も見た目もさまざまなキャラクターが、火を囲んで思い思いの時間を過ごしている今回のポスターのように、ただ多様性が存在している、という社会が理想的な姿だと思いますね。

**椎名:** 前提として、他人を否定しないことが重要だと思います。自分の目から相手と違う点が見えるように、相手からも自分とは違う点が見えるはず。そのような違いを同じ目線で見つめ合い、「あなたはそうだね」「わたしはこうなんだ」と言い合えることが、多様性が尊重される社会につながっていくと思います。

### ——イベントや実行委員会での活動を通して、区民の皆さんに伝えたいことはなんでしょうか。

**窪田:** 今回のイベントは、多様性を考えるきっかけの場になったかもしれませ

んが、まだまだ拾いきれなかった部分があると思います。今後は、差別や構造的な格差について、皆さんと一緒に考えを深めていきたいです。

**生江:** 今の子どもたちが大人になったとき、多様性という言葉がなくても、多様性の実現している世界になってほしいなと思います。

**椎名:** 誰もがマジョリティーの要素とマイノリティーの要素をどちらも内包しています。だからこそ、多様性の問題を他人事とは捉えずに、みんなで考えていく必要があるのではないのでしょうか。

**福本:** 単にマイノリティーについて考えてみましょう、と限定するのではなく、まずはお互いに向き合い、相手の話に耳を傾けることが、多様性のその先の一步につながるのではないかと思います。

**志水:** 一番伝えたいのは、人と関わることをあきらめないでほしいということです。みんな、それぞれ立場や性別、障がいの有無など、さまざまなものを抱えていますから、他者から傷付けられることもあると思います。でも、必ず素晴らしい人と巡り会えるので、積極的に人と関わってほしいですね。



▲渋谷フォーラム2021ポスターデザイン

渋谷フォーラム2021実行委員の皆さんへのインタビューは3月15・22・29日に「渋谷の星」で放送します。

バックナンバーはこちら

図 広報コミュニケーション課広報係 (03-3463-1287/03-5458-4920)